



平成27年度 文化庁文化芸術振興費補助金
(日本遺産魅力発信推進事業)



JAPAN HERITAGE

日本遺産 Japan Heritage

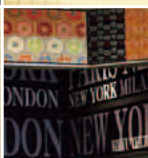
かかあ天下 —ぐんまの絹物語—

The Best Wife In The World



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。



かかあ天下ーぐんまの絹物語ー

絹生産で家計を支えた女性たち

“かかあ天下”というと、「強い女性」というイメージがありますが、実は、「働きものの女性」のこと。

古くから絹産業の盛んな上州(群馬県)では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます活躍しました。

夫(男)たちは、「おれのかかあは天下一」と呼び、これ

が「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では、内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。

「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ね、実際に織物に触れることで、家計を支え日本経済を支えた、まさに天下一の上州の女性たちの姿が見えてくるのです。

【絹織物ができるまで】

養蚕



蚕を育て、生糸のもととなる繭をつくる

蚕は繊細で飼育が難しい虫で、「お蚕(こ)さま」と呼ばれ、家の中で子どものように大切に育てられました。蚕の飼育は女性たちにとって重要な仕事で、休む間もなく働きました。

製糸



繭から糸をひいて生糸をつくる

昔ながらの手作業で糸をひく座繰り製糸も、世界遺産「富岡製糸場」に代表される器械製糸も、その担い手は女性が中心でした。女性たちの手による生糸は世界中に輸出されました。

織物



生糸を精練・染色し、織物に仕上げる

「西の西陣、東の桐生」と言われるように、桐生は古くから高級な絹の織物産地として知られています。桐生には、機織り女と呼ばれた女性が周辺の村から集まりました。

「絹の国ぐんま」の原風景

機音、製糸の煙、桑の海

明治の文豪である徳富蘆花は、明治期の群馬県の印象を「機音、製糸の煙、桑の海」と表現しました。

群馬県には、豊蚕を願う行事や信仰などが息づき、また絹に関わる文化財などが数多く残っています。そして、現在でも繭の生産量が全国1位を誇るなど、群馬県はまさに「絹の国」といえるのです。



【構成文化財分布図】

女性が繭の生産で活躍した家々

- 1 富沢家住宅
- 2 中之条町六合赤岩伝統的建造物群保存地区

女性養蚕指導者「永井いと」の功績を物語る建物

- 3 永井流養蚕伝習所実習棟

女性たちが座繰りでひいた糸を集め、品質をそろえて輸出した組合製糸の代表的遺産

- 4 旧小幡組製糸レンガ造り倉庫
- 5 甘楽町の養蚕・製糸・織物資料
- 6 甘楽社小幡組由来碑

しよくと 織都桐生で、織物伝来の伝説を物語る神社から、今も女性が働く工場まで巡る

- 7 白瀧神社
- 8 旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟
- 9 桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区
- 10 後藤織物
- 11 織物参考館“紫”
- 12 桐生織物会館旧館

家庭に眠る絹物語

上州には、大切にしまわれてきた絹の着物が眠っている家があります。代々の“かかあ”たちが、蚕を育て、糸をひき、布に織り、着物に仕立てた晴れ着や婚礼衣装です。母から娘へ、絹の記憶が受け継がれているのです。



受け継がれた花嫁衣装(中之条町)
出典：『絹の国のお宝～蚕種・養蚕・製糸・織物～』上毛新聞社

織都桐生で、織物伝来の伝説を物語る神社から、 今も女性が働く工場まで巡る

重伝建地区には、歴史的な建物を活用したカフェやミュージアムなどが点在しています。



無料バスMAYU

桐生駅起点の無料コミュニティバスを利用して、日本遺産を巡ろう！
(土・日、祝日のみ)
問合せ：桐生市観光交流課
☎0277-46-1111



8 旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟 桐生市重要文化財

大正6年(1917)に建築された糸に撚りをかける撚糸工場の事務所棟で、県内最古級の洋風石造建造物です。工場内で学校を設置するなど、女工に技術と教育を施しました。
かつては敷地内にノコギリ屋根工場が並び建ち、糸の「撚り掛」を機械化した、全国6カ所の「模範工場」の一つでした。

所在地：桐生市巴町2-1832-13
見学：【開館時間】午前9時から午後5時
【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日及び年末年始(12月28日から1月4日)
料金：大人(高校生以上)150円(30名以上団体110円)、小人50円(30名以上団体35円)
交通：JR両毛線桐生駅から徒歩4分／北関東自動車道太田桐生ICから約25分
駐車場：あり
問合せ：絹撚記念館☎0277-44-2399



9 桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区 国重要伝統的建造物群保存地区

天正19年(1591)に桐生新町が形成されて以来、この地区は織物業の中心地として桐生の経済発展を支えてきました。桐生の織物業は大正期から昭和初期に最盛期を迎え、当時の桐生新町の町並みには買継商や糸商、呉服商、染物業など織物業の店舗などが建ち並びました。
現在も商家とともに織物工場や寄宿舎、銭湯などが残り、女工の暮らしが偲べれます。

所在地：桐生市本町一丁目及び二丁目の全域並びに天神町一丁目の一部
見学：外観のみ見学可(敷地等へ無断立入不可)、ガイド付き見学(要予約)【織都桐生案内人の会】2時間(11名から15名以下)1,500円(時間・人数で変動)
交通：JR両毛線桐生駅から徒歩約15分／北関東自動車道太田桐生ICから約25分
駐車場：あり(有料)
問合せ：桐生市重伝建まちづくり課、ガイドについては桐生市観光交流課☎0277-46-1111



10 後藤織物 国登録有形文化財

所在地：桐生市東1-11-35
見学：月～金曜日(事前の予約必要)
料金：300円
交通：JR両毛線桐生駅から徒歩約20分、車約10分／北関東自動車道太田桐生ICから約25分
駐車場：あり
問合せ：合資会社後藤☎0277-45-2406

11 織物参考館“紫” 国登録有形文化財



「織物参考館“紫”」は、森秀織物の旧釜場、旧整経場、旧鋸屋根工場などを利用した体験型織物博物館の名称です。
館内では、女性従業員による染色や手織の体験、織物の歴史の学習、古い織機などの見学をすることができます。

12 桐生織物会館旧館 国登録有形文化財



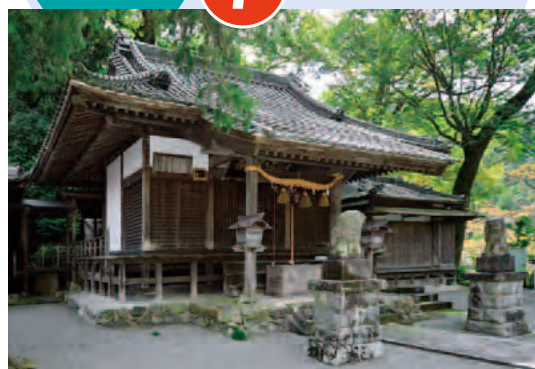
所在地：桐生市東4-2-24
見学：【開館時間】午前10時から午後4時
【休館日】毎週月曜日
※団体見学や体験は要予約
料金：大人700円、大・専門学生600円、高・中学生500円、小学生400円、団体割引20名以上50円割引
交通：JR両毛線桐生駅から徒歩約15分、車約7分
北関東自動車道太田桐生ICから約25分
駐車場：あり
問合せ：織物参考館“紫”☎0277-45-3111



昭和9年(1934)に桐生織物向上のため設立された桐生織物同業組合の事務所です。かつて女子職員が電話交換手やタイプライター事務員などを務め業務を支えていました。外壁はスクラッチタイル張、屋根は青緑色の日本洋瓦葺、二階窓にはステンドグラスを用いた洋風の外観です。現在は「桐生織物記念館」として一般公開しており、織物資料展示や絹製品の販売が行われています。

所在地：桐生市永楽町6-6
見学：【開館時間】午前10時から午後5時／【休館日】毎月最終週の土・日曜日、8月中旬、年末年始
料金：無料
交通：JR両毛線桐生駅から徒歩約10分／北関東自動車道太田桐生ICから約25分
駐車場：あり
問合せ：桐生織物記念館☎0277-43-7272

足きのぼして 7 白瀧神社



京都から織物技術を伝えたという「白瀧姫」をまつる神社です。この織姫の伝説は江戸時代に確立し、絹商人や機織り女たちの信仰を集めました。
境内には耳をあてると機音が聞こえたという「降臨石」と呼ばれる大岩や、樹齢300年以上といわれるケヤキがあり、神秘的な雰囲気がかたよっています。

所在地：桐生市川内町5-3288
見学：随時可 ※ただし社殿ほか建物は外観のみ見学可
交通：JR両毛線桐生駅からバス約25分
北関東自動車道太田桐生ICから約35分
駐車場：あり
問合せ：桐生市文化財保護課☎0277-46-1111

絹の国ぐんま Access Map 新潟県

●高崎駅・高崎ICへのアクセス

東京駅からJR上越・北陸新幹線で約50分
練馬ICから関越道で約55分



日本遺産 かかあ天下 —ぐんまの絹物語—

- 1 富沢家住宅
- 2 中之条町六合赤岩
伝統的建造物群保存地区
- 3 永井流養蚕伝習所実習棟
- 4 旧小幡組製糸レンガ造り倉庫
- 5 甘楽町の養蚕・製糸・織物資料
- 6 甘楽社小幡組由来碑
- 7 白瀧神社
- 8 旧模範工場桐生燃糸合資会社事務所棟
- 9 桐生市桐生新町
伝統的建造物群保存地区
- 10 後藤織物
- 11 織物参考館“紫”
- 12 桐生織物会館旧館

世界遺産

富岡製糸場と絹産業遺産群

- A 富岡製糸場
- B 田島弥平旧宅
- C 高山社跡
- D 荒船風穴

【世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群】

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、日本初の本格的製糸工場の富岡製糸場、養蚕の技術革新とその普及を果たした田島弥平旧宅及び高山社跡、繭の増産に貢献した荒船風穴の4つで構成されています。

これらの構成資産は、群馬の、そして日本の製糸業をリードし、1909年には日本は世界一の生糸輸出国になりました。これは世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」だけで成し遂げたのではなく、各地の養蚕農家、製糸工場、そして「かかあ」たちの活躍によって支えられていました。



【ぐんま絹遺産】

絹産業で栄えた群馬県には、たくさんの絹に関する建物や民俗芸能、生活文化などが残されています。群馬県は、これら文化財などを「ぐんま絹遺産」として登録しており、平成28年3月現在94件のぐんま絹遺産が県内各地で登録されています。世界遺産や日本遺産の構成文化財も、このぐんま絹遺産に含まれています。



【発行】かかあ天下ぐんまの絹物語協議会(事務局：群馬県企画部世界遺産課)

TEL:027-226-2328 FAX:027-224-2812 E-mail:sekaisan@pref.gunma.lg.jp

※掲載している写真・イラスト等はすべてイメージです。実際のものと異なる場合もあります。

※記載の情報は平成28年2月現在のものです。